

国際化学肥料ニュース (2018年6月)

肥料業界の2018年6月動態

- * 6月に入って最初の1週間に、インドがモロッコの OCP 社とヨルダンの JPMC 社から CFR425~430 ドル/トンで DAP を購入する契約をした。また、アメリカの Mosaic 社が昨年末に閉鎖したフロリダ州の自社りん安工場の代わりに CFR435~440 ドル/トンの高値で MAP と DAP をアメリカに輸入している。ブラジルもモロッコとロシアに CFR430 ドル/トンで MAP の購入を打診している。りん安市況の好調がしばらく続くだろう。
- * 6月、カナダの Nutrien 社とアメリカの Mosaic 社が一斉にアメリカ国内の塩化加里卸価格を引き上げた。その影響で、アメリカ国内の塩化加里末端販売価格が約 10 ドル/トン上がった模様。
- * 東南アジアの塩化加里輸入価格が若干上がった。先月マレーシアが行った塩化加里の入札では、最低応札価格が CFR273 ドル/トンであったが、6月に入って CFR 価格が 5~10 ドル/トン上がり、280 ドル/トンを超えた。多くの貿易商社は7月の塩化加里 CFR 価格 285~290 ドル/トンを提示している。
- * 中国税関の統計データによれば、4月の化学肥料輸出量が 8.5%減の 149.1 万トン。その内訳は尿素 11.8 万トン、DAP22 万トン、NPK 化成肥料 2.3 万トン。1~4月の化学肥料輸出量が 19.1%減の 530 万トン、金額が 12.8%減の 13.1 億ドル。一番多く減少したのは尿素で、輸出量が 74.7%減の 41.2 万トン。DAP 輸出量も 13.3%減の 86.9 万トンであった。
一方、4月の化学肥料輸入量が 4.1%増の 88.5 万トン、その内訳は塩化加里 81 万トン、化成肥料 5 万トン。1~4月の化学肥料輸入量が 4.6%増の 421.4 万トン、金額が 12%増の 11.03 億ドル。塩化加里輸入量が 355 万トン、化成肥料輸入量が 42 万トン。
- * 中国税関の統計によれば、5月の化学肥料輸出量が 182.3 万トン、その内訳は尿素 16 万トン、DAP68 万トン、NPK 化成肥料 2.6 万トン。一方、5月の化学肥料輸入量が 79.5 万トン、その内訳は塩化加里 55 万トン、化成肥料 19 万トン、尿素 3.9 万トン。
- * 6月中旬、DAP の取引が依然活発している。インド NFL 社の DAP 入札が開札し、CFR430 ドル/トンで 10 万トン DAP を契約した。また、同じインドの Kribhco 社も CFR430 ドル/トンで 3 万トン DAP の購入を決めた。

一方、アメリカの Mosaic 社は FOB412~413 ドル/トンで 3.8 万トン DAP を南米に輸出した。ヨルダンの JPMC 社が CFR428~430 ドル/トンでインドに 3 万トン DAP を輸出した。

- * 中国と大手加里メーカーとの 2018 年塩化加里輸入基本契約について、6 月末か 7 月上旬に合意を達成する見通しになった。今までの協議では、メーカー側は昨年の CFR230 ドル/トンから 70 ドル上げ、CFR300 ドル/トンとするようずっと要求し、中国側は CFR242 ドル/トンで応酬していた。最近になって、ベラルーシの BPC 社が CFR292 ドル/トンと提案し、中国側も態度をやや軟化した。消息筋の間は、CFR290 ドル/トン当たりで妥協するだろうと見ている。
- * 中国の最新調査報告によれば、2018 年第 1 四半期の化学肥料販売量が 7%減の 1,355.5 万トン。その内訳は窒素肥料が 8.1%減の 788.3 万トン、りん酸肥料が 4.2%減の 292.5 万トン、加里肥料が 7%減の 273.1 万トンである。化学肥料の販売量が減少した原因は、農産物の価格低迷による農家の栽培意欲の減退、化学肥料の価格高騰による使用量の減少、有機肥料の代替、土壌診断による施肥量の減少などである。

大手各社の営業業績

- * ロシアの PhosAgro 社が第 1 四半期の業績を公表した。りん酸肥料売上高が 23%増の 186.3 億ルーブル、窒素肥料売上高が 56%増の 95.6 億ルーブル、NPK 化成肥料売上高が 38%増の 108.8 億ルーブル、りん鉱石売上高が 15%減の 48.6 億ルーブルと好調する。但し、原料天然ガスと硫黄の高値で生産コストが上昇し、純利益が 44%減の 68.7 億ルーブル（約 2.32 億ドル）に留まる。
- * ロシアの Acron 社は第 1 四半期の業績を発表した。ロシアルーブルの為替レートが上昇により、売上高が 240.5 億ルーブルと前年同期とほぼ同様であるが、米ドルの換算で 3%増の 432 億ドル。EBITDA（利払い・税金・償却前利益）が 11%増の 1.4 億ドル、純利益が倍増の 7300 万ドルである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの Parkway 社が西オーストラリアにある Lake Barlee 加里肥料プロジェクトの探査井戸を掘り始めた。Barlee 塩湖が西オーストラリア州にあり、鹹水に硫酸加里が多く含まれている。Parkway 社がその塩湖に 10 か所の井戸を掘り、地下鹹水を採集し、鹹水層の厚さと硫酸加里濃度などを調査し、資源量と開発可能性を評価する予定。

- * イギリスの Emmeson 社は所有するモロッコ Khemisset 加里プロジェクトの資源境界範囲と埋蔵量、採掘可能性などの詳細調査を Golder Associates 社に依頼した。それに合わせて、2 億株の新規株式を発行し、約 804 万ドルを調達した。
 Khemisset はモロッコの北部にあり、前期の調査では加里鉍石埋蔵量 3.1 億トン、平均 K₂O 含有量 10.2%。当該プロジェクトにすでに 2,000 万ドルを投入して、4 年後に第 1 期工事が完成する予定であるという。
- * ロシアの EuroChem 社はオーストラリアの Danakali 社との間に、Danakali 社が開発しているアフリカエリトリアの Colluli 硫酸加里プロジェクトから生産する製品の全量を 10 年間販売する契約を締結した。Colluli 硫酸加里プロジェクトは Danakali 社とエリトリア国営鉍産企業との合弁で開発を進み、2022 年までに完成する予定である。硫酸加里資源量 2 億トン、鉍山稼働期間 200 年と計画されている。
 また、EuroChem 社はロシア国内に開発中の VolgaKaliy 加里プロジェクトがほぼ完成し、下半期から稼働し始まり、年内に 15~20 万トン塩化加里を生産すると発表した。
- * カザフスタンの Taraz 社は所有のりん鉍山の拡張とりん酸肥料工場の生産ライン増設計画を公表した。今年下期から着工し、完成後りん酸肥料生産能力が倍増の 50 万トンに達する。
- * ロシアの Acron 社は子会社の Verkhnekamsk Potash 社を通して、Talitsky に加里鉍山の開発を進んでいる。当該鉍山の塩化加里資源量 6,000 万トン、2009 年から地質探査を開始し、2013 年から着工、2019 年稼働し始める計画である。
- * ドイツ K+S 社はオーストラリアの Kalium Lakes 社と契約を締結し、Kalium Lakes 社の Beyondie 加里プロジェクトの設計、建設と運営に協力して、稼働後の最初 10 年間に毎年 10.5 万トン以上の硫酸加里を購入する内容である。Beyondie 加里プロジェクトは西オーストラリア州 Newman の東南 160km にあり、推定埋蔵量 2 億 6600 万トン、鹹水の硫酸加里含有量 14kg/m³、設計生産能力 15 万トン硫酸加里/年、投資額 1.24~2.2 億ドル、今年末から稼働し始めると計画されている。
- * オーストラリアの Agrimin 社は西オーストラリアにある Lake Mackay 塩湖の硫酸加里の開発を計画している。Lake Mackay はオーストラリア第 4 位の湖で、面積 5000km²、鹹水と湖底の沈殿物に多量の硫酸加里を含んでいる。計画では毎年 42.6 万トンの硫酸加里を生産し、生産コストを 220 ドル/トン未満に抑え、稼働年数 20 年と予定している。現在、開発可能性の研究を行い、開発許可を申請し、塩湖と周辺土地の使用賃貸を交渉している段階で、実際の開発スケジュールが未定である。

その他

- * インド南部のタミルナードゥ州政府は Vedanta Resources 社の Sterlite 銅精錬所の永久閉鎖命令を出した。銅の精錬に発生した排煙と排水が汚染元となり、環境破壊の原因であると地元の環境保護団体が長年抗議している。当該精錬所が 1996 年完成したインド最大の銅精錬所で、銅鉱石を精錬する際に発生した年間約 100 万トンの副産硫酸を国内の肥料会社に販売し、りん鉱石からりん酸の抽出などに使われている。閉鎖によりインドのりん酸肥料生産に悪影響を及ぼす可能性が高い。

- * ウクライナ国家安全と国防委員会の発表によれば、ロシアの肥料メーカーと小売商に対する輸入制裁措置が 5 月 19 日から発動した。今回の制裁対象が Acron 社、EuroChem 社、PhosAgro 社、UralChem 社など計 756 社になり、制裁期間が 3 年間と予定している。

制裁の理由は不当廉売と東部親ロシア集団の占領地域への不当な肥料販売である。生産内容は資産凍結、貿易制限、税制優遇措置の停止などである。この制裁措置により、ロシアからの尿素輸入量が年間 30~40 万トン減少し、MAP などりん酸肥料の輸入量も半減するといわれる。ただし、制裁リストにロシアのアンモニアメーカー Rossosh 社、Togliattiazot 社と Kuibyshevazot 社が含まれず、アンモニアの輸入制限をしない。

- * 5 月末、ロシアの EuroChem 社がウクライナ子会社の売却を公表した。ウクライナとロシアの関係悪化で、ウクライナ政府は 2017 年からロシアから輸入される化学肥料にアンチダンピング関税を徴収したうえ、2018 年 5 月から輸入制裁も始めた。その影響で、EuroChem 社のウクライナ子会社業績が急速に悪化し、改善の見通しが見えないため、手放しを決めた。

また、ロシアの PhosAgro 社もウクライナとの貿易を全面停止し、りん酸塩を含む化学肥料と原料を一切にウクライナに輸出しないと決定した。

- * チュニジア国営の CPG 社はりん鉱石の生産が回復したと発表した。昨年 11 月から発生した従業員のストライキにより、りん鉱山の生産がほとんど停止し、1~3 月のりん鉱石採掘量が 50 万トン未満で、平年の 3 割しかなかった。3 月下旬に従業員に妥協して、ストライキ行動を終結させた。3 月末から生産が正常化の軌道に乗り、4~5 月の 2 か月で 74.7 万トンりん鉱石を生産した。CPG 社は今年のリん鉱石生産量を 650 万トンから 500 万トンに下方修正した。

- * オーストラリアの Danakali 社はアフリカエリトリアの Colluli 加里プロジェクトから産出する硫酸加里について、ロシアの EuroChem 社と販売契約を締結した。Colluli 加

里プロジェクトは Danakali 社とエリトリアの国営 ENAMCO 社が折半で出資し、硫酸加里を生産する。2022 年上期から稼働する予定である。

EuroChem 社は Colluli 加里プロジェクトの硫酸加里生産量の 87%以上をベルギー Antwerp とロシア Nevinnomyssk にある自社の化成肥料工場に使用するほか、自社販売ルートに乗せて輸出する予定である。契約期間は Colluli プロジェクトが稼働してから 10 年間である。

- * イスラエル ICL 社のイギリス子会社 Cleveland 社は所有の Boulby 加里鉱山の最終製品を塩化加里からポリハライト (Polyhalite) への転換が完了したと発表した。ポリハライトは硫酸カリウム、マグネシウム、カルシウムの複塩水和物で、Boulby 鉱山から採掘される主な加里鉱石である。ICL 社はこのポリハライトを加里と苦土肥料として、PolysulphateTM という商品名で販売している。

Boulby 鉱山が 1973 年から採掘し始めた歴史のある鉱山で、40 数年間の採掘でトンネルの総延長が 80km を超えた。採掘されたポリハライトやカーナリットを原料として塩化加里を精製するコストがかかり、採算性が低下したため、2012 年から Cleveland 社はポリハライト鉱石を粉砕して、不純物を除いたものを製品として販売し、販売数量が毎年約 50%増えた。2020 年に精製ポリハライトの年間生産量を 100 万トンに増やす計画である。

- * モロッコの OCP 社は南アフリカに差し押さえられているりん鉱石 5 万トンを取り返したと発表した。このりん鉱石は昨年 5 月ニュージーランドの Balance Agri-Nutrients 社に輸出するもので、途中のケープタウン港に停泊する際に西サハラのパリサリオ戦線の申立で南アフリカの裁判所が差押えの判決を下した。今年 3 月に競売をかけたが、競売参加者がなく、流された。5 月に入って、南アフリカ裁判所が期限までにパリサリオ戦線の差押え保証金の支払いがないため、貨物を解放するとの判決が出た。

- * 債権者に破産が申請された中国の大手肥料メーカー涇天化社は裁判所の決定で民事再生手続に入った。涇天化社は四川省にある政府系の最大肥料企業で、生産能力尿素 158 万トン、化成肥料約 200 万トンである。2008 年以降業績が悪化し、2017 年の赤字額 14 億人民元 (約 2.1 億ドル)。2018 年 6 月 11 日現在の借金総額 35.31 億人民元 (約 5.35 億ドル) を超え、有効資産がただの 8.05 億人民元 (約 1.22 億ドル) しかない。支援スポンサーがまだ決まっていない模様。